

### (2) 栗ノ保・富永地域

#### ア. 景観特性・課題

- 千里浜海岸の延長である海岸線の景観保全、活用が課題です。
- 整備中である国道415号バイパス沿線の田園風景の保全や建物・看板・広告物などのデザインを統一する規制が必要です。



田園風景(国道415号望む)

- ・ほ場整備された田園から、宝達丘陵地や眉丈山系を望む眺望が豊かな自然景観を形成しています。

- 能登有料道路沿線の畑地などの農地の保全と、新保工業団地では景観に配慮した緑地の整備が必要です。

ダイコン畑



新保工業団地



- ・能登有料道路に近いスイカや大根畑などの畑地も農地景観に優れ、同道路沿線の景観形成に貢献しています。
- ・大型の工場用地として造成された敷地が、管理の行き届かない状態で放置されています。また、ゴミのポイ捨てなどがあり、早期の景観に配慮された工場の建設が望まれます。

- 国道249号並びに国道415号は本地域と市街地とを結ぶ重要な幹線であり、特に国道415号沿線では、近年に大型の店舗などの進出があり郊外型の商店街を形成しています。

国道415号沿線



国道249号沿線



- ・国道415号沿線では、近年に大型の店舗などが建ち並び、商店街を構成しています。無秩序な大型の屋外広告物や架空電線が交差して、にぎわいと同時に雑然としています。
- ・国道415号バイパスは、国道159号や能越自動車道へのアクセス道路として整備されてきていますが、田園などの周辺環境に調和した道路整備と広告物などの規制が必要です。
- ・国道249号沿線では、地域の景観に似合わないアパート群も建設されています。また、閉業した派手な色彩のパチンコ店がそのまま残されています。

○ 住宅地（集落）

新保町地内(粟ノ保地区)



三ツ屋町地内(富永地区)



- ・粟ノ保地区では、旧道である一本の道路を中心とし、両側に住宅が建ち並び、細街路で広がる農村集落の景観を形成しています。
- ・富永地区では、大きな敷地内にアズマ建ちなどの農家住宅と蔵が多く残り、寺社があり、その間を用水が流れる典型的な農村集落景観を有しています。



立開町地内

・立開では、ミニ開発の集合による新市街地が形成されてきていますが、その建物の敷地面積が狭く、路上に駐車する車が見られます。また、公園の整備や生垣、窓辺の草花などによる緑を増やす工夫が必要です。

○ その他

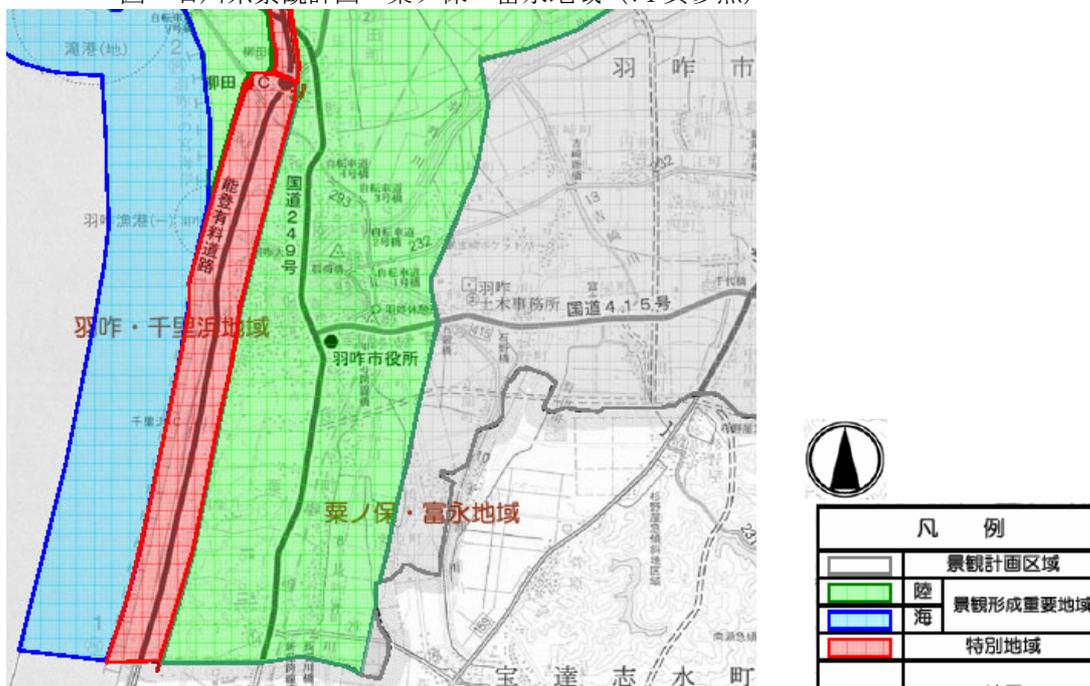


三ツ屋工業団地

・三ツ屋工業団地では、大型の工場が立地されましたが、工業団地の計画的な造成とともに敷地の緑化や、周辺環境との調和など工夫が必要です。

## イ. 石川県景観総合計画の位置づけ

図 石川県景観計画 粟ノ保・富永地域 (74 頁参照)



能登有料道路沿線については、その道路境界線から2 km（海域について汀線1 km）を**景観重要エリア**に指定しており、地域の特性に応じた規制誘導を図るとしています。また、より積極的な規制誘導を行うその道路境界線から両側200 mを**特別エリア**に指定しています。

本地域の粟ノ保地区のほとんどと富永地区の一部が景観重要エリアに指定されていますが、その他は、緩やかな規制誘導を行う**景観エリア**として指定されています。

## ウ. 景観まちづくりの目標

### 目標1：優良な自然・田園空間を保全する



工事中の国道415号バイパス

- ・整備中である国道415号バイパス沿線の田園風景やその周囲の集落などは、都市空間の至近にありながら、一定の秩序を保った優良な自然・田園景観を有しています。可能な限り保全していくことが大切です。

- ・大きな建築物や広告看板、また資材置き場などの土地利用は、自然・田園景観の中でもとくに目立ちやすいものであるため、周囲の

景観に調和するデザインや色彩を用いることで、できるだけ周囲になじんだものとするのが大切です。

## 目標2：周辺の地域性や環境と調和した景観づくり

- ・ 田園集落の景観は、個人の建物や敷地利用の積み重ねによって構成され、水辺や農業集落など、地域らしさや自然環境、地形、歴史的資源など豊かな景観資源が残されています。
- ・ 新たな建物を建てる際には、これらの景観資源との共生を図り、旧来の面影を活かした景観づくりを進め、個々の建物の意匠を工夫する、自然素材を積極的に取り入れる、生垣や庭木を配置することが望まれます。

## 目標3：周辺の田園集落や緑になじむ沿道の景観づくり

- ・ 特に国道415号沿線では、車からの見え方を重視した目立つデザインの建物の立地や大きく派手な色彩の看板を設置する傾向があり、まとまりのない沿道景観となっています。今後は、にぎわいの演出も大切にし、周辺田園集落から突出することのない落ち着いた建物のデザインや調和した沿道景観づくりを目指す必要があります。

## 目標4：工業団地の外縁部の環境との調和に配慮する



緑化した駐車場のある工業団地

- ・ 工業団地の外縁部は、農村集落が建ち並んでいたり、広大な田畑が広がっています。区域の外縁部において、これらの景観との調和に配慮し、周辺から突出しないように努めることが求められます。
- ・ 通り側に駐車場や屋外設備、資材置き場を配置する場合には、その周囲を緑で演出することが有効です。
- ・ 工場や倉庫は機能を重視するため、大きな壁面が目立ち、殺風景な景観となりがちです。周辺に圧迫感を与えることがないように、素材や色彩を工夫したり、壁面の分節化を図ることが望まれます。
- ・ 洒落たデザインや落ち着いた空間を演出することで、景観の向上に加え、企業イメージの向上にもつながります。

## 目標5：自然風景を損なわない土地利用や建築物などのデザインとする

- ・ 海岸周辺では、能登有料道路などからの広がりのある眺めを大切にし、適切な敷地利用や建物デザインとすることが大切です。